

著者紹介

赤津 裕子

玉川大学文学部卒業後、玩具・ベビー用品の企画開発に従事。2002年法政大学大学院社会科学部研究科修士課程修了、沖電気工業(株)入社。ユーザビリティ・アクセシビリティに関する業務を担当。研究領域は認知工学。

天野 真家(正会員)

(株)東芝研究開発センター。1973年京都大学大学院・工・電気・修士。自然言語処理の研究に従事。日本語ワードプロセッサ、機械翻訳システム等の自然言語処理システムの研究開発。ICOTプロジェクト、EDRプロジェクトなどに従事。本会理事、ITS Forum 位置情報WG主査、機械工業連合会位置情報利用技術研究交流会主査。

小幡 明彦(正会員)

1984年早稲田大学理工学部電子通信学科卒業。同年(株)富士通研究所入社。2001年北陸先端科学技術大学院大学知識科学研究科博士後期課程修了。博士(知識科学)。ユーザビリティ工学、CSCWに興味を持つ。現在、WEBユーザビリティ評価技術、コールセンタ業務分析技術等の開発に従事。

金田 泰(正会員)

1981年東京大学大学院情報工学専攻修了。同年日立製作所に入社。中央研究所を経て現在はシステム開発研究所に所属。コンパイラ、論理型言語や記号計算のベクトル処理、創発的計算、情報抽出・検索・組織化、ポリシー制御等の研究開発に従事。

川上 春夫

昭和14年岡山県生まれ。昭和37年明治大学工学部電気工学科卒業。同年、八木アンテナ(株)研究所入社。昭和39年上智大学理工学部助手。昭和58年工学博士(東北大学)。昭和60年上智大学理工学部講師。平成3年東京都立航空工業高等専門学校非常勤講師。平成4年上智大学理工学部助教授。同年、アンテナ技研(株)取締役。平成6年埼玉大学工学部共同研究員。平成10年宇都宮大学客員教授。アンテナ、移動体通信、EMCなどの研究・開発に従事。著書「新電気回路基本演習」(平成2年、工学図書)、「新交流回路基本演習」(平成4年、工学図書)、「アンテナ理論とその応用」(平成3年、ミマツデータシステム)など。電子情報通信学会、映像情報メディア学会各会員。IEEE Senior Member、ACES Member、電子情報通信学会論文誌査読委員。

河崎 宣史

1992年電気通信大学大学院修士課程修了。工学修士。同年(株)日立製作所デザイン研究所(現デザイン本部)入社。2000年よりユーザビリティ関連の研究に従事。

黒須 正明(正会員)

1978年早稲田大学文学研究科(博士課程心理学専修)修了後、日立製作所中央研究所、デザイン研究所、静岡大学情報学部情報科学科を経て、現在、文部科学省メディア教育開発センター教授。APCHI98大会委員長、JIS TC 159/SC 4/SG 4主査、ヒューマンインタフェース学会国際担当理事、INTERACT2001大会長などを歴任。

砂原 秀樹(正会員)

奈良先端科学技術大学院大学情報科学センター教授。1988年慶應義塾大学理工学研究科後期博士課程修了。工学博士。インターネット、並列処理分散処理に関する研究に従事。

竹内 啓(正会員)

1933年東京生まれ。経済学博士。東京大学経済学部教授および先端科学技術研究センター教授を経て、明治学院大学国際学部教授。専門分野は統計学(特に統計的推測理論)、計量経済学、日本経済論、科学技術論。

丹 康雄(正会員)

北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科情報ネットワーク講座助教授。ユビキタスコンピューティング、情報家電コンピューティング、計算機ネットワークなどに興味を持つ。

E-mail:ytan@jaist.ac.jp

寺田 実(正会員)

1981年東京大学工学部計数工学科卒業。同大助手、電気通信大学助手、東京大学助教授を経て、2002年より電気通信大学情報通信工学科助教授。工学博士。プログラミング、対話的システムに興味を持つ。

中里 裕正

平成5年特許庁入庁、特許審査第四部電子商取引に所属。

萩谷 昌己(正会員)

昭和57年東京大学大学院理学系研究科情報科学専攻修士課程修了。京都大学数理解析研究所を経て、現在、東京大学大学院情報理工学系研究科教授。基本的に、演繹的推論を計算上に変換することに興味を持っている。また、最近では、生命情報関連の研究(特に、分子計算)も行っている。

平沢 尚毅(正会員)

1987年早稲田大学人間科学部助手。1990年小樽商科大学助手。1996~97年英国HUSAT研究所客員研究員。2002年小樽商科大学助教授。現在に至る。ISO/TC 159/SC 4国内委員。システム開発ライフサイクルにおける人間中心設計プロセスのマネージメントを中心に研究の中。

ひろのかずお

1963年大阪外国語大学仏語科卒業、大阪市立大学~慶應義塾大学に学ぶ。日本ユニバック(現日本ユニシス)、CSK、情報技術開発(株)を経たが、この間、人工知能、認知科学分野、インターネット分野で広範囲に活動。現在は、とりあえずのフリー。

深谷美登里

1990年図書館情報大学図書館情報学部図書館情報学科卒業。同年(株)東芝入社。1995年よりデザインセンターにて、ユーザインタフェース設計、ユーザビリティ評価、ユーザ調査業務などに従事。

細野 直恒

1979年慶應義塾大学大学院計測工学専攻修士課程修了。同年沖電気工業(株)入社。1981年英国UMIST大学MSc取得。現在、沖コンサルティングソリューションズ(株)シニアマネージングコンサルタント、IEEE、HIS評議員、慶應義塾大学共同研究員、ISO/TC 159委員。

堀部 保弘

原子力発電プラントの安全性評価から、ハイテク設備における事故分析、制御盤のインタフェース評価の中でユーザビリティ工学を研究。ISO/TC 159/SC 4/WG 6委員。

松尾 和洋(正会員)

1975年東京大学大学院物理学専攻博士課程修了。同年University of California, San Diego(UCSD)に留学。1978年富士通(株)国際情報社会科学研究所に入所、(株)富士通研究所を経て、現在Fujitsu Laboratories of America, Inc., Vice President & College Park 研究所長。理学博士。日本人工知能学会理事、日本神経回路学会理事を歴任。Neural Network誌 Acting Editor。東京大学工学部非常勤講師。E-mail:kmatsuo@fla.fujitsu.com

三樹 弘之(正会員)

1985年東京理科大学修了。1990~92年UCサンディエゴ校訪問研究員。現在、沖電気工業(株)ITラボラトリ勤務。埼玉大学地域共同研究センター客員助教授を兼任。ソフトウェアユーザビリティ国際標準委員。

山田 昭彦(正会員)

1958年大阪大学工学部通信工学科卒業。同年NEC入社。以来コンピュータ、CADの研究開発に従事。1993年東京都立大学工学部電子・情報工学科教授。2000年国立科学博物館主任調査員。工学博士。IEEEフェロー。

山本 雅康

光学機器メーカー(インダストリアルデザイン)、家電メーカー(ユーザインタフェース・デザイン)を経て、テフラインランドジャパン(株)に入社。ユーザビリティサービスマネージャ。

おひいすらん

年の変わり目になると1年が早いなあ、と覚えることが多くなったのは、もしかして年齢のせい...? それにしても2002年はことさら早かった! 生活環境が変わったということもあり、部屋の片付けさえままならない状況で、出かけたりに会う機会も多く、特に後半は時間が3倍速で過ぎていったような気がします。

そんなあわただしい日々の中で、昨秋、幼稚園の時に世話になった先生のお宅にお邪魔する機会がありました。この先生、70歳になろうかというお歳なのですがとってもお元気で、パソコン教室に通い、年に数回海外旅行に出かけ、さらには「スポーツ吹き矢」の指導員をされているとのこと。

先生がパソコンでやりたいとおっしゃることはたくさんあって、各種案内文書などを作成する、デジカメで撮った写真はもとよりアナログ写真もCD-Rに収めたい、部屋の中で場所を取っている大量のビデオテープをコンパクトにまとめたなど、話は尽きません。デジタル音痴のうちの母親とは大違いです。

先生が指導員をされているという「スポーツ吹き矢」

というものを私はこの日初めて知ったのですが、50～120cmの長い筒にフッと息を吹き込んで5～10m離れた40cm四方の的に20cmほどの矢を当てるというものです。先生はご自宅にスペースを作り（窓際に的を備え、そこから5m、6m、7mの位置にテープが張ってあります）、ご自宅でも教えられてるそうです。私もちょっとやってみましたが、その呼吸法は気功に似たところもあり、しばらくすると汗がにじんでくるほどで、的の中央付近に矢が当たったりすれば、「やったー!」という感じで、老若男女問わずに楽しめそうです。

帰り道、いただいた話題のヨーグルトを手に、先生の行動力と学習意欲に関心しながら、私も負けてはいられないぞ、とそんな気持ちにもさせられました。

2003年もまたあつという間に過ぎて行きそうな気がしますが、少しは落ち着いて自分のやりたいこと、やるべきことなども考えながら、時間に追われるばかりではなく過ごしたいと思っているところです。

(伊藤早苗/研究部門)

おひいすらん

私のゴルフ奮闘記

私は、スポーツが大好きで、昔から野球、水泳、卓球、ラグビー、テニス、スキー、スノボ、スキューバダイビングなどさまざまなスポーツをやってきましたが、今はまってしまいそうなのがゴルフです。きっかけは、1年半くらい前のテニス仲間からのゴルフの誘いでした。それまで、ゴルフは打ちっぱなしに数年前（よく覚えていない）に行ったことがある程度で、もちろんコースなど1度も出たことなどありませんでした。スポーツ万能? な私ですから最初は、「ゴルフ!? あんなものスポーツじゃないよ」くらいに思っていたのですが、のちのちそれが大きな間違いだったことに気づかされることになろうとは...

とりあえず初めてのコースに向けて、「ちょっとくらいは練習しておかない」と思いゴルフ経験のある友人とまずは打ちっぱなしに練習へ。打席に入りおもむろにドライバーを持って軽く2、3回素振りした後、「さて打ってみよっか」とボールめがけてフルスイング...「ブン!」あれ? ボールは? どうやら空振り。気を取り直して、「今度はかっ飛ばしてやる!!」ともう1回フルスイング...「ブン!」あれ? またもや... ボールは微動だにせずピンの上に乗ったままでした。「くっそー」。とりあえず打席をはずすと、ここで友人からアドバイス、「もっと力を抜かなきゃダメダメ」と一言。ここは素直に言うことを聞いて「力まず、力まずに」自分に言い聞かせながら再度打席へはいりスイング。「カキーン」心地よい金属音がした。「あたたつ!!」けど打球はどこへ? どうやら見失ってしまっ

たらしい。もう1回スイング「カキーン」またもや当たり。でもボールは? 「俺の打ったボールどこに飛んだか見えたか」「見えたよ、あっち」と右のネットを指差す友人。「え? あんな方に!?!」どうやら超ド級のスライスだったらしい。その後も続けて数十球打った。だんだん当たるようにはなってきたが、ボールは一向にまっすぐ飛んでくれない。友人へ尋ねた。「なんで俺の球は曲がるんだろう」、この一言が友人の火をつけてしまった。「まだ力みすぎ、体の開きが速い、スイングは下半身から始動して...（動作も交えて）」うんちくが始まった（のちのちゴルファーは皆自分なりのうんちくをそれぞれが持っていることに気が付く）。今思えば、「なぜ曲がるのか」これは非常に難しい問題です（今だに私のボールは曲がります）。とりあえずこの後も、友人のうんちくを聞きつつアイアン、フェアウェイウッドとひと通り全種類のクラブでボールを打った。ドライバー同様、空振り、曲がり、シャンク、ダフリなどさまざまなミスをしたのは言うまでもない。そんなこんなで、200球くらいを打った。手にもすっかりまめができてしまった。友人からも、「とりあえず当たるようにはなったからこんなもんでいっか」ということで練習終了。私も、「まあ当たるようになったんだからコースデビューもなんとかなるだろ」ということで練習場を後にした。

次回は、ゴルフコースデビュー編です。

(鮎川 修/事業部門)

《平成 15 年度会誌モニタ募集のお知らせ》

会誌編集委員会

会誌「情報処理」をよりよくするために編集委員一同努力を続けておりますが、会誌についての会員の方々の評価や希望をうかがい、今後の改善に役立てるために、モニタ制度を設けております。関心のある方はぜひふるってご応募ください。

応募の資格：本会員で、モニタの役割を積極的に果たしていただける方。

モニタの役割：会誌毎号の本誌巻末の所定用紙または学会 Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) から、毎月アンケートに回答する。
記事に対する評価／記事に対する感想・意見／記事テーマの提案／そのほか全般的な意見・提案 など

期 間：原則として 1 年間とします。

対 象 号：会誌 44 巻 4 号～ 45 巻 3 号

謝 礼：貴重なご意見をいただいた方には薄謝を贈呈します。

募集人員：特に定めませんが、応募者数によっては当委員会で調整させていただくことがあります。

応募締切：平成 15 年 2 月 28 日（金）必着

* E-mail, Fax, または下記 Web サイトからお申し込みください。

申込／照会先 情報処理学会 会誌部門（モニタ係）

E-mail : editj@ipsj.or.jp Tel (03) 5484-3535 Fax (03) 5484-3534

詳細・申し込み > > <http://www.ipsj.or.jp/katsudou/mag/topic/monitor.html>

<モニタ申込書>

1. 氏名：
2. フリガナ：
3. 会員番号：
4. 住所：
5. 所属：
6. E-mail：
7. Tel：
8. Fax：
9. 年齢：
10. 性別：男性／女性
11. 業種：企業（サービス業）／企業（製造業）／研究機関／教育機関（大学・高専等）／学生／その他
12. 職種：研究職／開発・設計／システムエンジニア／営業／本社管理業務／会社経営・役員・管理職／
教官・教員（大学・大学院）／教職員（小・中・高校・高専等）／学生／その他
13. ご要望など：

会員の広場

Member's Voice

今月の会員の広場では、11月号へのご意見・ご感想を紹介いたします。まず、11月号の特集「ジャパングガビットネットワーク」に対しまして、以下のご意見をお寄せいただきました。

■「JGN (Japan Gigabit Network)」の特集では、本格的次世代インターネットのための研究開発用テストベッドとしての、3年間の成果と今後期待されることが紹介されており、大変興味深く拝読いたしました。特に各県とのつながりは有意義であり、いわゆる、すべてが中心の中核たり得る可能性を持ち、この点を発展させるべきものと思います。(山口 周)

■JGNは日本初の次世代インターネットのための研究開発用テストベッドとして運用され、それを利用して今後の情報通信基盤に関する研究成果が数多く得られていることがよく分かりました。このような社会的先導的な取り組みが、世界をリードする技術開発やブロードバンド情報社会のモデル確立のための基盤として普及しますよう今後の研究に期待したいと思います。(匿名希望)

■「九州ギガポッププロジェクト」を読んで、ネットワークの基礎知識に乏しいため、なかなか読み切れない中で、九州に他地区をさしおき、東京と並ぶ情報基盤センターがあることを知った。これは地域振興のためにもよいことである。韓国やアジア太平洋地域との共同研究も進められているようで、先端研究の代表例として、今後の一層の発展に期待する。(匿名希望)

■「ジャパングガビットネットワーク」は、最先端の話題である。JGNは、利用できるスキルのある大学と利用できるスキルのない大学との間で、情報格差が生じる可能性が高く、今後の動向に注目したい。(水野光朗)

■プロバイダ各社が競ってブロードバンドサービスを開始し、ISDN回線を上回る、日本発のADSL回線の普及が急速に進んでいる。リアルタイムのコンテンツ放映、ネットワーク対戦ゲームなどインターネット常時接続を前提とした技術について造詣の深い人たちが先端の技術について解説された最高の記事でした。(小金沢雄一)

■ギガビット関係の特集は関係していないせいかあまりピンときておりません。(菊池隆治)

また、11月号の解説記事に対しましては、以下のご意見をお寄せいただきました。

■「量子情報処理による新ムーアの法則—量子ビット並列による高速化—」は、見事な解説記事であり、感服しました。(渡辺昭治)

■一見難しそうな量子情報処理や、メタモデル標準について、なにか琴線に触れるものがありました。(菊池隆治)

■ちょうど要望を出した量子計算の解説があり、興味深く読ませていただきました。さらに、続けて実装技術の解説などもしていただくと嬉しいです。(和田隆夫)

■「量子情報処理による新ムーアの法則—量子ビット並列による高速化—」を興味深く読ませていただきました。しかし、量子コンピュータに関して、アルゴリズムの話は何度か目にしましたが、量子コンピュータのハードウェアとしての実現についての話はほとんど読んだことがありません。量子コンピュータの実現についての記事も読んでみたいと思いました。(匿名希望)

■「音声補充：言い淀むと助けてくれる音声インタフェース」の解説を読んで、音声認識法を用いた文字入力方法は近年、かなりの域に達していると「宣伝」されているものの、速さ、正確さの面において、とうてい、キーボードにはかなわないというのが私の認識である。そのために、体の不自由な方への提供が中心だろうと考えていた。ところが、後藤氏の研究は「アナウンサーのように話せますか」という、まさに私と同じ視点から出発し、だから、音声認識として話した言葉をそのまま文字化するのを目的とするのではなく、音声の持つ情報を活かすという、大変興味深く、また、音声インタフェースの将来像を示す画期的な方法を知る機会となった。(嘉村友作)

11月号の連載記事では、以下のご意見をお寄せいただきました。

■「とつきよの話」は今回は具体的で大変興味を持って読ませていただきました。連載は今回はとても分かりやすくよかったですという印象が残りました。(菊池隆治)

■「日本語ワードプロセッサの誕生とその歴史」を興味深く拝見しました。我が国の情報処理では、日本語（漢字カナ交じり文）の入力が容易でないことが、計算機の利用に大きく立ちはだかっていました。この問題を解決したことは、日本文化に対する筆舌に尽くせない貢献であります。ところで、中国、台湾、韓国も、我が国と同じ問題に直面してきたわけですが、現在ではワードプロセッサを使用しています。これらの国における、ワードプロセッサ発展の歴史、特徴、および日本で発達したワードプロセッサ技術の影響について、「情報処理」誌に論文を掲載していただきたいと存じます。中国語については、相当前に「情報処理」誌で、さまざまな入力方法が試みられているとの論文を、読んだ記憶がありますが、現在では収斂しているものと推測されます。かつて、私は、中国語や朝鮮語のワードプロセッサは、てっきり日本語ワードプロセッサの技術を応用して開発されたものと、考えていました。しかし高島俊男「漢字と日本人」(文春新書)によると、日本語では、音節が100種類程度で、1音節単位に漢字に変換することが困難なのに対し、漢語では、音節が1500種類もあることを知りました。朝鮮語の文字ハングルは、音標文字ですので、日本語のような、カナ漢字変換技術が必要としません。ただし、それを漢字風にまとめて表記するための正書法があるため、変換が必要であることを知りました。日本語処理には、高精細なプリンタやCRTディスプレイが必要ですが、これらに対する日本の貢献についても解説していただきたい。私は、通信機・情報処理機器メーカーに勤務していましたが、ワイヤー・ドット・プリンタはアメリカで開発されたが、漢字の出力が行えるように、日本のメーカーが相当に努力した記憶があります。(堀井義輝)

■「日本語ワードプロセッサの誕生とその歴史」は大変に興味

深い内容でした。今後は仮名漢字変換技術を代表とする文字入力技術について、さまざまな技法を系統的に解説した記事を読みたいと思います。(角川裕次)

■ワープロの方は、ちょっと、話しが古くさくないでしょうか？歴史館にでもいけば分かるようなものよりは、もう少し、今のかな漢字変換技術に関する袋小路をどうするとうとうころまで、話しを進めてもらいたかったです。(小金沢雄一)

■「漢字・日本語処理技術の発展」は大変参考になった。(匿名希望)

■「プログラム・プロムナード：倉庫番パズル」を読んで、懐かしい気分になりました。問題を解かせるプログラムを組むために、まず自分が解けなければならないのが大変な問題です。(匿名希望)

11月号のコラム記事では、以下のご意見をお寄せいただきました。

■コラムは相変わらず勉強の指針になる良い内容でした。今回は読んでよかったですと思いました。(菊池隆治)

■「真のニーズと思い込みニーズ」は、面白く読ませていただきました。未来のニーズについては、調査に基づく予測も大切ですが、研究の原動力は「思い込み」であると納得しました。(山本 誠)

■「真のニーズと思い込みニーズ」に関してですが、本誌の読者は情報分野に携わる方々であり、どうしても視点は「高情報リテラシー」の立場からとなってしまう。しかし、その視点はある意味、特殊であって、多くのユーザが何を望んでいるのか常に意識しておくことの重要性に気付く解説である。(嘉村友作)

■「真のニーズと思い込みニーズ」は、身近ではあるが、あまり知られていないエピソードが取り上げられており、興味深かった。(水野光朗)

その他の記事に関しまして、以下のご意見をお寄せいただきました。

■実は、「編集系独白」が従来の学会誌にはない、辛口の誌評をされているので、毎回読むのが楽しみである。書き手と読み手を良い意味での緊張感をもって繋ぐ1ページとなっていると

感じています。(匿名希望)

■「編集系独白」は簡にして要を得ていて面白い。Abstractとしても十分読めます。(政本廣志)

■森口先生のご逝去は残念です。学校時代のノートは就職後逐次廃棄していった中で、同先生の講義録は唯一、座右の書の1つとして永い間活用しています。ご冥福をお祈りします。(匿名希望)

今後取り上げてほしいテーマや会誌の内容に関して、以下のご意見をお寄せいただきました。今後の参考にさせていただきます。

■オープンソース、CMM、XP、アジャイル以外で、今、ソフトウェア工学がどう進められているのかを読んでみたいです。(匿名希望)

■「日本のIT事情：中国のソフト開発の現場から」は興味深く拝読できた。先日TVでも取り上げられていたが、インドなどを含めて特集をしていただくとありがたいです。(匿名希望)

■ニューロコンピュータとニューロデバイスの研究開発動向。(渡辺昭治)

■脳の情報処理モデルに対する最新の研究動向が知りたいです。特集の記事はいつも読みにくく感じます。英語でもよいので、分かりやすく興味深いものを期待します。(匿名希望)

■バイオインフォマティクスの状況。(政本廣志)

■今月はひどい風邪を引いてしまい、満足に読めませんでした。ただ、用語に略語等が多く出てきて理解するのに時間がかかってしまいました。素人にとってはもっと分かりやすく書いてもらおうとありがたいです(著者の方々はそれでも気をつけて分かりやすく書いていらっしゃるのでしょうか。すみません)。(古賀秀昭)

■今月はあまり関心のある記事がなかったので、ほとんど目を通しませんでした。(匿名希望)

会誌や掲載記事に関するご意見・ご感想は学会ウェブページでも受け付けております。今後もよりよい会誌を作るため、ぜひ皆様のお声をお寄せください。

【本欄担当 永井保夫、田澤 功/書評・ニュース分野】



ご意見をお寄せください！！

皆様にとって会誌をより役立つものとするため、

- ・記事に対する感想、意見
- ・記事テーマの提案
- ・会誌または学会に対する全般的な意見、提言
- ・その他、情報処理技術についての全般的な意見、提言

など、自由なご意見、ご感想をお待ちしております。

なお、「道しるべ」については <URL: <http://www.ipsj.or.jp/katsudou/mag/michishirube.html>>

でこれからのテーマ案を募集しており、いただいたご意見をまとめております。

ご意見、ご感想を会誌に掲載させていただいた方には薄謝を進呈いたします。掲載に際しては、編集の都合上、ご意見に手を加えさせていただくことがあります。あらかじめご了承ください。

応募先 〒108-0023 東京都港区芝浦 3-16-20 芝浦前川ビル 7F
情報処理学会 会誌担当 E-mail: editj@ipsj.or.jp Fax: (03)5484-3534
<http://www.ipsj.or.jp/enq/enq4402.html>



IP SJ カレンダー

行事名	開催日	会場
連続セミナー 2002 第3回「セキユリティ技術」 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/seminar/seminar.html	2003/2/18 (火)	工学院大学 (新宿)
第49回音楽情報科学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/MUS49.html	2003/2/21 (金) ~ 2003/2/22 (土)	日本文理大学湯布院研修所
東海支部 講演会「仮説推論による知識処理の高度化 -不完全な知識の下での適切な推論方法とその高速化技術-」 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/tokahome.html	2003/2/21 (金)	大同工業大学
第19回電子化知的財産・社会基盤研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/EIP19.html	2003/2/22 (土)	早稲田大学
連続セミナー 2002 第4回「ネットワークプロトコル技術」 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/seminar/seminar.html	2003/2/24 (月)	工学院大学 (新宿)
第92回システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/OS92.html	2003/2/27 (木) ~ 2003/2/28 (金)	立命館大学
第111回マルチメディア通信と分散処理・ 第20回コンピュータセキュリティ合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/DPS111CSEC20.html	2003/2/27 (木) ~ 2003/2/28 (金)	キャンパスプラザ京都
インタラクシオン 2003 http://hands.ei.tuat.ac.jp/Interaction2003/	2003/2/27 (木) ~ 2003/2/28 (金)	学術総合センター一橋記念講堂
第43回数値モデル化と問題解決研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/MPS43.html	2003/3/3 (月) ~ 2003/3/4 (火)	なにわ一水
第24回モバイルコンピューティングとワイヤレス通信研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/MBL24.html	2003/3/6 (木) ~ 2003/3/7 (金)	横須賀リサーチパーク
第154回自然言語処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/NL154.html	2003/3/6 (木) ~ 2003/3/7 (金)	徳島大学
第140回ソフトウェア工学研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/SE140.html	2003/3/6 (木) ~ 2003/3/7 (金)	情報処理学会会議室 (芝浦)
第40回オーディオビジュアル複合情報処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/AVM40.html	2003/3/7 (金)	KDDI
第12回高度交通システム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/sig/its/kenkyukai/kenkyukai0303.html	2003/3/7 (金)	機械振興会館
第5回システム評価研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/EVA5.html	2003/3/7 (金)	南山大学
第109回システム LSI 設計技術研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/SLDM109.html	2003/3/10 (月) ~ 2003/3/11 (火)	宮城県産業技術総合センター
第144回計算機アーキテクチャ研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/ARC144.html	2003/3/10 (月) ~ 2003/3/11 (火)	科学技術振興事業団研究成果活用 プラザ北海道
第93回ハイパフォーマンスコンピューティング研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/HPC93.html	2003/3/11 (火) ~ 2003/3/12 (水)	科学技術振興事業団研究成果活用 プラザ北海道
東海支部 平成14年度専門講習会 「フォトリックネットワークとブロードバンドコンテンツ」 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/tokahome.html	2003/3/13 (木) ~ 2003/3/14 (金)	ルブラ王山
第132回知能と複雑系研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/ICS132.html	2003/3/13 (木) ~ 2003/3/15 (土)	大阪市立大学
第83回情報システムと社会環境研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/IS83.html	2003/3/14 (金)	専修大学
第89回アルゴリズム研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/AL89.html	2003/3/14 (金)	富士通研究所
第47回グループウェアとネットワークサービス研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/GN47.html	2003/3/19 (水) ~ 2003/3/20 (木)	名古屋大学
第112回マルチメディア通信と分散処理研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/DPS112.html	2003/3/20 (木)	NTT ドコモ R&D センタ
東海支部 講演会「日本における最近の IC カード利用動向と世界の事例」 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/	2003/3/24 (月)	NTT データ
第65回全国大会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/taikai/65taikai.html	2003/3/25 (火) ~ 2003/3/27 (木)	東京工科大学 (八王子)
第137回コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/CVIM137.html	2003/3/27 (木) ~ 2003/3/28 (金)	東京大学
第70回情報学基礎研究会・第38回デジタル・ドキュメント研究会合同研究発表会 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/FI70DD38.html	2003/3/28 (金)	情報処理学会会議室 (芝浦)
北海道支部 情報処理北海道シンポジウム 2003 http://www.ipsj.or.jp/sibu/hokkaido	2003/4/17 (木) ~ 2003/4/18 (金)	北海道大学

行事名	論文応募締切日	会場
マルチメディア、分散、協調とモバイル (DICOMO2003) シンポジウム (2003/6/4-6 開催) 論文募集 http://www.dicomo.org/	2003/2/12 (水)	北海道ニュー阿寒ホテル シャングリラ
第 155 回自然言語処理研究発表会 (2003/5/26-27 開催) 発表論文募集 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/NL155.html	2003/2/28 (金)	東京工業大学
第 138 回コンピュータビジョンとイメージメディア研究発表会 (2003/5/8-9 開催) 発表論文募集 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/CVIM138.html	2003/2/28 (金)	東京大学
DA シンポジウム 2003 (2003/7/22-24 開催) 論文募集 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/S-DA2003.html	2003/3/7 (金)	遠鉄ホテルエンパイア
第 145 回計算機アーキテクチャ研究発表会 (2003/5/8 開催) 発表論文募集 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/ARC145.html	2003/3/7 (金)	慶應義塾大学 (日吉)
北海道支部 情報処理北海道シンポジウム 2003 論文募集 http://www.ipsj.or.jp/sibu/hokkaido	2003/3/12 (水)	
第 58 回人文科学とコンピュータ研究発表会 (2003/5/30 開催) 発表論文募集 http://www.ipsj.or.jp/katsudou/sig/kaikoku/CH58.html	2003/3/25 (火)	上野市勤労会館
東海支部 平成 14 年度学生論文奨励賞論文募集 http://www.ipsj.or.jp/sibu/tokai/tokahome.html	2003/3/31 (月)	
論文誌「ユビキタス環境のモバイル通信システムと ITS」特集論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/mblits.html	2003/3/31 (月)	
論文誌「インタラクション：理論・技術・応用・評価」特集論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/hi.html	2003/4/10 (木)	
論文誌「ユビキタス時代のインターネット／分散システムの構築・運用技術」特集論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/dsm.html	2003/4/25 (金)	
論文誌「ブロードバンドネットワークサービス」特集論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/dps.html	2003/5/9 (金)	
論文誌「コラボレーションの「場」とコミュニティ」特集論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/gn.html	2003/5/15 (木)	
論文誌「音楽情報科学」特集論文投稿 http://www.ipsj.or.jp/toukou/tokushuu/mus.html	2003/6/30 (月)	

Web ページ (<http://www.ipsj.or.jp/>) 更新情報 - What's New より -

■ 2003 年 1 月 17 日

・平成 15 年度研究会新規登録の受付を開始しました。すでにいずれかの研究会に登録されている方は、2 月上旬にお送りする案内をお待ちください。

■ 2003 年 1 月 15 日

・平成 15 年度「役員改選」「代表会員選出」および「支部役員改選」について。

■ 2003 年 1 月 8 日

・平成 15 年度会誌モニタ募集のお知らせ。

■ 2003 年 1 月 7 日

・会告目次を更新しました。

■ 2002 年 12 月 20 日

・「会員の意見箱」を設置しました。各テーマごとに皆様の忌憚ないご意見を願います。
・第 65 回全国大会聴講参加・講演論文集・懇親会参加予約受付開始 !!

人材募集 (有料会告)



申込方法: 任意の用紙に件名、申込者氏名、勤務先、職名、住所、電話番号および請求書宛先などを記載し、掲載希望原稿（[募集職種、募集人員、(所属)、専門分野、(担当科目)、応募資格、着任時期、提出書類、応募締切、送付先、照会先]）を添えて下記の申込先へ E-mail、Fax または郵送にてお申し込みください。
*都合により編集させていただく場合がありますので、ご了承ください。

申込期限: 毎月15日を締切日とし翌月号（15日発行）に掲載します。

掲載料金: 国公立教育機関、国公立研究機関 20,000円（+税）
賛助会員（企業） 30,000円（ 〆 ）
賛助会員以外の企業 50,000円（ 〆 ）

申込先: 情報処理学会 会誌部門（有料会告係） E-mail:editj@ipsj.or.jp Fax(03)5484-3534
*人材募集広告は会誌と同時にオーム社発行月刊誌「コンピュータ&ネットワーク LAN」にも掲載されることになりました（料金の追加はありません）。ただしオーム社側の掲載については字数などの関係から大幅に編集されることをご了承ください。

*特に指定がないかぎり履歴書には写真を貼付のこと

■熊本大学工学部数理情報システム工学科

募集人員 助教授 1名
所属 ヒューマンインタフェース講座
担当科目 パターン認識、コンピュータグラフィクスとその関連科目（学部）
コンピュータビジョン第二、画像情報処理Ⅱとその関連科目（大学院）
応募資格 拡張現実感（コンピュータビジョン、アクティブビジョン、コンピュータグラフィクスなど）の専門分野で、博士の学位を有し、大学院博士課程の学生を指導でき、年齢40歳以下の方
着任時期 平成15年7月1日（予定）
提出書類 履歴書、研究教育業績リスト（論文、国際会議論文、解説・研究報告、著書、特許、講演、受賞、教育業績、学会などにおける活動、その他に区分すること）、主要論文・特許の別刷（コピー可）、これまでの研究概要*、博士学位論文名とその概要*、今後の研究計画*、今後の教育に対する抱負*、研究助成などの取得状況 * A4用紙1枚程度
応募締切 平成15年2月28日（必着）
送付先 〒860-8555 熊本県熊本市黒髪2-39-1 熊本大学工学部数理情報システム工学科 学科長 梅野英典
E-mail:umeno@cs.kumamoto-u.ac.jp Tel(096)342-3608 「教官応募書類」と朱書き書留 *提出書類は返却いたしません
照会先 数理情報システム工学科 教授 内村圭一 E-mail:uchimura@cs.kumamoto-u.ac.jp Tel(096)342-3638
その他 書類審査の上、場合によっては面接を行います

■筑波技術短期大学視覚部情報処理工学科

募集人員 助手 1名
専門分野 福祉工学、情報処理全般あるいは視覚障害補償に関連する分野
担当科目 講義室 PC および学科内ネットワークの管理運営、授業補助、学生の学習や生活の相談・支援など
応募資格 視覚障害者の教育と職業自立支援に熱意を持って取り組める方、博士の学位を有するか、もしくは近い将来その取得が可能な方
着任時期 平成15年4月1日以降できるだけ早い時期（希望）
提出書類 履歴書、主要業績目録など（以上2点書式指定）、全業績リスト、主要論文（5編以内、コピー）、人柄について意見を伺える方2名程度の氏名と所属（推薦書を求めることがあります）、視覚障害者の高等教育および今後の研究などに関する抱負（1200字以内）、連絡先（電話、E-mail）
応募締切 平成15年3月3日（必着）
送付先 〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-3-15 筑波技術短期大学人事係 Tel(029)858-9308 「情報処理工学科応募書類在中」と朱書き書留
照会先 〒305-0821 茨城県つくば市春日4-12-7 筑波技術短期大学視覚部情報処理工学科 主任 宮川正弘
E-mail: mamiyaka@cs.k.tsukuba-tech.ac.jp Tel/Fax(029)858-9574 http://www.tsukuba-tech.ac.jp
その他 本学は3年制の国立短期大学で視覚部学生は全員視覚に障害を持っています。そのため、一人一人の学生へのきめ細かな指導、就職への支援などが特に求められます。

■九州工業大学情報工学部知能情報工学科

募集人員 助教授 1名
専門分野 メディア情報処理（コンピュータビジョン、ロボットビジョン、言語メディア理解、音声情報処理など）
担当科目 学部：パターン理解、オブジェクト指向プログラミングなど、大学院：パターン認識特論など
応募資格 博士の学位を有し、博士後期課程の担当ができる方で、30歳代が望ましい
着任時期 平成15年10月
提出書類 履歴書、研究業績リスト、主要論文別刷、教育・研究に関する抱負（800字程度）
応募締切 平成15年4月30日（必着）
送付先/照会先 〒820-8502 福岡県飯塚市大字川津680-4 九州工業大学情報工学部知能情報工学科 学科長 遠藤 勉
E-mail:endo@pluto.ai.kyutech.ac.jp Tel(0948)29-7616 Fax(0948)29-7601 「教員応募書類在中」と朱書き書留

■日本大学生産工学部数理情報工学科

募集人員 教授または助教授 1名
 専門分野 情報工学または関連分野
 担当科目 アルゴリズム、ソフトウェア工学など
 応募資格 大学院を指導できること、ソフトウェア開発の実務経験があることが望ましい
 着任時期 平成15年9月1日以降のなるべく早い時期
 提出書類 履歴書、研究業績書、論文別刷、現在までの研究概要(1000字程度)、着任後の教育・研究に対する抱負(1000字程度)、本人に関する所見を求め得る方2名の氏名・連絡先
 応募締切 平成15年4月30日
 送付先 〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1 日本大学生産工学部 数理情報工学科事務 「応募書類在中」と朱書き書留
 照会先 数理情報工学科 学科主任 篠原正明 E-mail:suuri@cit.nihon-u.ac.jp Tel(047)474-2672
 その他 選考にあたっては書類審査後、面接を実施することがあります。選考結果は応募者ご本人に通知します

■広島市立大学情報科学部情報数理学科(平成15年4月より情報メディア工学科に名称変更予定)

募集人員 教授 1名
 所属 情報論理学講座
 専門分野 マルチメディア通信、情報ネットワーク、情報セキュリティ
 担当科目 情報理論、データ構造とアルゴリズム、線形代数学
 応募資格 博士の学位を有し、大学院博士後期課程の指導が可能である方
 着任時期 平成15年10月1日以降のできるだけ早い時期
 提出書類 履歴書、研究業績リスト(学位論文、学術論文、国際会議論文、著書、特許などに分類)、論文の別刷(コピー可)、研究業績概要(A4用紙2枚程度)、着任後の研究計画(A4用紙1枚程度)、教育への抱負(A4用紙1枚程度)、参考となる意見を伺える方2名の氏名・所属・連絡先
 応募締切 平成15年4月30日(必着)
 送付先/照会先 〒731-3194 広島県広島市安佐南区大塚東3-4-1 広島市立大学情報科学部情報数理学科 学科長 佐野 学
 E-mail:syaka@cs.hiroshima-cu.ac.jp Tel/Fax(082)830-1555 「教員応募書類」と朱書き簡易書留

■室蘭工業大学情報工学科

募集人員 助教授または講師 1名
 所属 知識工学講座
 専門分野 コンピュータサイエンス
 担当科目 学部：言語処理系論、情報工学演習 大学院博士前期課程：知識工学特論
 応募資格 博士の学位を有し、情報工学に関する教育・研究に熱意のある方で、年齢は40歳未満が望ましい
 着任時期 平成15年7月1日以降のなるべく早い時期
 提出書類 履歴書(学歴、職歴)、研究業績リスト(著書、査読付き論文、国際会議論文、その他の論文・報告書、特許、学会活動、各種研究助成金採択状況、などに分類)、主要論文別刷(5編、コピー可)、これまでの専門分野に関する実績の概要・ならびに着任後の教育および研究に対する抱負(2000字程度)、推薦書2通または本人に関する所見を伺える方2名の氏名と連絡先
 応募締切 平成15年4月30日(当日消印有効)
 送付先/照会先 〒050-8585 北海道室蘭市水元町27-1 室蘭工業大学工学部情報工学科 学科長 佐藤一彦
 E-mail:satoh@csse.muroran-it.ac.jp Tel(0143)46-5422 Fax(0143)46-5499 http://www.muroran-it.ac.jp/
 「教員応募書類在中」と朱書き書留 *提出書類は原則として返却いたしません



FIT2003 情報科学技術フォーラム 論文発表募集予告

平成15年3月14日(金)より登録申込み/投稿 受付開始予定

会期：平成15年9月10日(水)～12日(金)

会場：札幌学院大学(北海道江別市)

一般論文および査読付き論文の論文発表を募集いたします。

講演時間：20分

論文ページ数：標準 2ページ, エキストラページ 1ページ

FIT2003では、論文ページ数をエキストラページを含め3ページまで増やしました。
(但し、エキストラページを利用した場合には別途その分の費用を頂きます。)

情報処理学会(IPSJ)と電子情報通信学会情報・システムソサイエティ(ISS)は、合同で2002年から毎年秋季に「情報科学技術フォーラム(FIT: Forum on Information Technology)」を開催することとなり、第1回目のFIT2002を去る2002年9月25～28日に東京工業大学大岡山キャンパスにおいて開催致しました。お陰様で沢山のイベント企画と論文発表が行われ盛大のうちに無事終了致しました。

本フォーラムは、従来のIPSJ全国大会とISSソサイエティ大会との流れを汲むものですが、従来の大会の形式にとらわれずに、新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、議論・討論の活性化、他領域研究者との交流などを実現してゆきたいと考えております。

つきましては、標記のとおりFIT2003の論文発表を募集致しますので皆様奮って御応募下さい。

また、FIT2003からは電子情報通信学会ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)が正式に共催団体として加わることになりました。

一般論文

今までIPSJ全国大会とISSソサイエティ大会で実施してきたものと同様のものです。

査読付き論文

査読付き論文は、FIT設立に伴い新たに導入された企画です。採録率はおよそ1/3で採択された論文は「情報技術レターズ(Information Technology Letters)」として独立した講演論文集に掲載されます。更に、採択された論文の中から船井ベストペーパー賞を3件選定し、受賞された方には船井情報科学振興財団から賞金20万円が贈呈されます。皆様、是非ともチャレンジして下さい。
なお、査読付き論文に投稿されて不採録となった場合には、一般論文として扱います。

申込主要日程(予定)

一般論文・査読付き論文	登録申込み/投稿受付開始：平成15年3月14日(金)
査読付き論文	登録申込み〆切り
	査読のための投稿〆切り：平成15年4月30日(水)
一般論文	登録申込み〆切り：平成15年6月6日(金)
一般論文・査読付き論文	投稿〆切り：平成15年7月11日(金)

※登録申込みと原稿投稿は、すべてWebを通じて行って頂きます。下記のFIT2003公式サイトからお願い致します。

※登録申込み、論文投稿要領の詳細は、決定次第FIT2003公式サイトでお知らせ致します。

問合せ先

〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20芝浦前川ビル7F
社団法人情報処理学会 事業部門 電話(03)5484-3535, FAX(03)5484-3534

FIT2003 公式サイト <http://www.ipsj.or.jp/katsudou/fit/fit2003.html>

オブジェクト指向 2003 シンポジウム(OO2003) 論文募集

日時：2003年8月20日(水)～8月22日(金)

場所：早稲田大学 西早稲田キャンパス 14号館

主催：情報処理学会 ソフトウェア工学研究会

協賛：情報サービス産業協会，日本ソフトウェア科学会 (予定)

OO 2003



プログラミング言語の計算モデルを端緒としたオブジェクト指向も，今日では，ソフトウェア工学の研究と実践に不可欠な技術として普及・発展しています。ネットワーク社会を支えるソフトウェアの基盤技術であるとも認知されています。近年では Web 情報システムの開発技術の核をなすものとも位置付けられ，さらにはアスペクト指向等の POP(Post Object Programming)技術の母体ともなっています。情報処理学会ソフトウェア工学研究会では，過去 8 年間に渡ってオブジェクト指向シンポジウムを開催し，多岐に渡る議論を展開してきました。このような活動を継続・発展させ，日本の独創的な技術の発信や適用経験などの情報交換の場を提供し，新しい技術の方向を見据えることを目的として，オブジェクト指向 2003 シンポジウムを開催します。今回は，ソフトウェア工学研究会創立 25 周年にあたり，記念事業も開催の予定です。

つきましては，下記のテーマを中心に，シンポジウム発表論文を募集致します。シンポジウム予稿集は例年通り，大手出版社から単行本として刊行の予定です。フルペーパー採録された Research Paper ならびに Best-Practice Report の中から優れた発表を選び，カテゴリ毎に「優秀賞」を授与します。また，情報処理学会論文誌にて特集号を企画する予定です。多数のご投稿をお待ちしています。

【募集テーマ】

- ・基礎技術：モデリング，言語，形式手法，視覚化，移動性，静的解析／検証
- ・基盤／ミドルウェア：UML，XML，分散オブジェクト基盤，エージェント基盤，ワークフロー
- ・開発／支援技術：要求分析，設計，プログラミング，テスト，保守／進化，開発プロセス，メトリクス，プロジェクト管理，リポジトリ
- ・再利用：パターン，フレームワーク，アーキテクチャ，コンポーネント，ビジネスオブジェクト
- ・展開／アプリケーション：Web サービス，エンタープライズ，実時間，組み込み，特定ドメイン応用
- ・POP 技術：アスペクト指向，GP(Generative Programming)
- ・事例：開発事例，既存システムからの移行

【募集論文】

(1) 論文種別と採録判定

研究論文(Research Paper)，経験報告(Best-Practice Report)のカテゴリで募集します。

- ・研究論文は独創的研究成果を発表するもので，新規性/独創性，有用性，正確さが重要視されます。
- ・経験報告は，オブジェクト指向の実践に関するもので，速報性，有用性，正確さが重要視されます。

カテゴリ毎に上記の募集基準に基づき査読を行ない，フルペーパー採録，ショートペーパー採録で採録します。

(2) 応募の方法

研究論文・経験報告はシンポジウム指定の様式で 8 ページ以内にまとめて下さい。投稿時には以下の内容を網羅したカバーシートを添付して下さい。カバーシートの形式は任意とし，投稿原稿の分量に含めません。

- ・論文種別(研究論文，経験報告のいずれかを明記)，論文題目，著者名，論文概要(200 字以内)，キーワード(上記のテーマを参考に記入)，投稿者連絡先(氏名，住所，電話，FAX，EMAIL)

(3) 企画セッション

上記論文報告以外にパネル，チュートリアル，ミニワークショップ等を計画しています。企画案が固まり次第，別途，募集します。

(4) 今後の予定

- 投稿締切：2002年4月7日(月)，採否通知：2002年6月2日(月)，最終原稿提出：2002年7月14日(月)

(5) 運営組織

実行委員長：田村 直樹(三菱)，プログラム委員長：野呂 昌満(南山大)

プログラム・実行委員：依頼交渉中

ステアリング委員：青山 幹雄(南山大)，上原 三八(富士通研)，岸 知二 (NEC)，佐伯 元司(東工大)，
玉井 哲雄(東大)，中谷 多哉子(S-Lagoon)，羽生田 栄一(豆蔵)，深澤 良彰(早大)

(6) 最新情報・論文様式の入手先：ソフトウェア工学研究会ホームページ <http://www.ipsj.or.jp/sig/se/>

ご意見をお寄せください！

[3月10日頃までにお出しく下さい]

宛先 (社) 情報処理学会 モニタ係 (下記のいずれからも送付できます)
http://www.ipsj.or.jp/enq/enq4402.html Fax(03)5484-3534 E-mail:editj@ipsj.or.jp
(E-mail で送信される場合は、10-1-a のようにコードでお答えください)

[コード]

1. ご氏名
2. ご所属 Tel. () -
3. E-mail:
4. 業種: (a) 企業 (サービス業) (b) 企業 (製造業) (c) 研究機関 (d) 教育機関 (大学・高専など)
(e) 学生 (f) その他 4-
5. 職種: (a) 研究職 (b) 開発・設計 (c) システムエンジニア (d) 営業 (e) 本社管理業務
(f) 会社経営・役員・管理職 (g) 教官/教員 (大学・大学院) (h) 教職員 (小・中・高校・高専など)
(i) 学生 (j) その他 5-
6. 年齢: (a) 10代 (b) 20代 (c) 30代 (d) 40代 (e) 50代 (f) 60代以上 6-
7. 性別: (a) 男性 (b) 女性 7-
8. あなたはモニタですか?: (a) はい (b) いいえ 8-
9. あなたのご意見は「会員の広場」に掲載される場合があります。その場合:
(a) 実名可 (氏名のみ掲載) (b) 匿名希望 9-
10. 今月号 (2003年2月号) の記事についてのあなたの評価をご記入ください。
[a...大変参考になった b...よい c...普通, どちらとも言えない d...悪い e...読んでいない]

特集: ユーザビリティ・エンジニアリング

- ユーザビリティ工学の背景と概説 10-1-
- ユーザビリティ工学と国際規格 10-2-
- ソフトウェア開発におけるユーザビリティ工学 10-3-
- 家電分野でのユーザビリティへの取り組み 10-4-
- グループウェアでのユーザビリティへの取り組み 10-5-
- 公共機器分野でのユーザビリティへの取り組み 10-6-
- Web ユーザビリティへの取り組み 10-7-
- 日本の情報処理技術の足跡: コンピュータおよび LSI 用設計自動化システムの変遷 10-8-
- ユビキタスコンピューティング時代における無線 LAN のアンテナ技術 10-9-
- とっきょの話: 暗号に関する発明の明細書作成のポイント 10-10-
- 地域社会と IT: 加賀百万石の IT 戦略 10-11-
- プログラム・プロムナード: どこで会える? 10-12-
- 20 世紀の名著名論: Robert W. Floyd: Nondeterministic Algorithms 10-13-
- 20 世紀の名著名論: J. von Neumann and O. Morgenstern: Theory of Games and Economic Behavior 10-14-
- モバイルは今: DHCP for IPv6 10-15-
- IT ルネサンスのために: ヒューマンインタフェースの復権を: HI は、どのようにして定量的評価可能になるか? 10-16-
- 日本の IT 事情: IT 人材育成あれこれ 10-17-
- アメリカ IT まわりの話題: 特許の均衡論って何? 10-18-
- 研究会たより: 骨無し魚 10-19-

11. 特に興味を持ってお読みになった記事とその感想をお書きください。

12. 著者への質問・今後取り上げて欲しいテーマ・また「道しるべ」に取り上げてほしいテーマなどありましたらお書きください。

本特集では、ユーザビリティ工学といわれる分野の概要を示すため、理論的なパートと実践的なパートを組み合わせることにした。堀部氏、平澤氏に担当していただいたのが理論編であり、深谷氏、小幡氏、細野氏、河崎氏に担当していただいたのが実践編である。各著者の皆さんには、最新の状況を反映したホットな原稿を書いていただくことができ、大変ありがたく思っている。紙数の制限さえなければ、もっと多面的にユーザビリティ工学について紹介したいとも考えていたが、特集という

ボリュームの中では、今回の編成はそれなりに最適なものであったろうと考える。

今回、私はゲストエディタということで、ゲストという立場に甘えてしまい、各著者のフォロー作業など、大変な部分は日立製作所システム開発研究所の島袋潤さんにおまかせしてしまった。ここで、島袋さんに心からの謝意を表したい。

(黒須正明/本特集ゲストエディタ)

次号 (3月号) 予定目次

編集の都合により変更になる場合がありますのでご了承ください。

「特集」インフォメーションハイディング

インフォメーションハイディングの概要/画像を用いたステガノグラフィ/画像へのインフォメーションハイディング/音声・音楽を用いたステガノグラフィ/ドキュメントへのインフォメーションハイディング/通信におけるインフォメーションハイディング/インフォメーションハイディングの社会的側面/インフォメーションハイディングの応用と今後の展開

解説

最先端の自動並列化コンパイラ技術..... 笠原博徳
PC サーバの入出力インタフェース動向 阿部晋樹 他

連載 とつきよの話/日本の情報処理技術の足跡/プログラム・プロムナード

コラム IT ルネサンスのために: ヒューマンインタフェースの復権を/アメリカ IT まわりの話題/研究会たより/
20 世紀の名著名論/日本の IT 事情/モバイルは今

会員募集中!!

**ITの最新情報, 研究発表の場の提供を通じて,
あなたのお役に立ちます。**

詳しくはWebサイト <http://www.ipsj.or.jp/> をご覧ください

申込/照会先 社団法人 情報処理学会

〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F

Tel(03)5484-3535 Fax(03)5484-3534 E-mail:mem@ipsj.or.jp



複写される方に

☐ <学術著作権協会依頼>

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、図書館も著作権者から複写権の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けてください。著作物の転載・翻訳のような複写以外の許諾は、直接当学会へご連絡ください。

〒170-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル

学術著作権協会

E-mail:naka-atsu@mju.biglobe.ne.jp

Tel (03)3475-5618 Fax (03)3475-5619

ただし、アメリカ合衆国における複写については、右記の In the USA に記載の所へご照会ください。

Notice about Photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission from the following organization, which has been delegated for copyright for clearance by the copyright owner of this publication.

Except in the USA

Japan Academic Association for Copyright

Clearance (JAACC)

6-41 Akasaka 9-chome, Minato-ku, Tokyo

107-0052, Japan

E-mail:naka-atsu@mju.biglobe.ne.jp

Tel: 81-3-3475-5618 Fax: 81-3-3475-5619

In the USA

Copyright Clearance Center, Inc. (CCC)

222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, USA

Phone: (978)750-8400 Fax: (978)750-4744

<http://www.copyright.com>

掲載広告カタログ・資料請求用紙

掲載広告の詳しい資料をご希望の方は、必要事項をご記入の上、E-mail:sei@ss-com.co.jp または Fax.03-3368-1519 へご請求ください。

「情報処理」 月号をみて

広告主名	製品名	希望項目 [※]	その他要望事項

※希望項目：A 購入希望、B 担当者から連絡・訪問希望、C カタログ希望

フリガナ
お名前

勤務先

所属部署

所在地

(〒 _____)

TEL (_____)

-

FAX (_____)

-

ご専門の分野

広告のお問合せ・お申込みは・・・広告総代理店（株）精機通信社へ

発行 社団法人 情報処理学会
 発行部数 30,000 部
 体裁 A4 判
 発行日 毎当月 15 日
 申込締切 前月 10 日
 原稿締切 前月 20 日
 広告原稿 オフセット用ポジフィルム
 原稿寸法 1 頁 天地 260mm × 左右 180mm
 1/2 頁 天地 125mm × 左右 180mm
 雑誌寸法 天地 297mm × 左右 210mm

お問合せ・お申込みは
 広告総代理店
（株）精機通信社 Tel.03-3367-0571
 〒 169-0073 東京都新宿区百人町 2-16-13
 Fax.03-3368-1519 E-mail: sei@ss-com.co.jp

■ 広告料金表

掲載場所	4 色	2 色	1 色
表 2	330,000	—	—
表 3	275,000	—	—
表 4	385,000	—	—
表 2 対向	300,000	—	—
表 3 対向	265,000	190,000	155,000
前付 1 頁	250,000	165,000	135,000
前付 1/2 頁	—	—	80,000
前付最終	—	—	148,000
目次前	—	—	148,000
差込 (A4 判 70.5kg 未満 1 枚)	275,000		
差込 (A4 判 70.5kg ~ 86.5kg 1 枚)	350,000		

* 上記料金はポジフィルム納入による料金です。
 * 版下・製版等が必要な場合には別途実費申し受けます。
 * 断切広告は上記料金の 10% 増です。ただし、表 4 は不可。
 * 上記料金には消費税は含まれておりません。